

リンゴの早生種並に核果類に対する

2.4.5. T P の影響

沢田英吉

前号で報告したリンゴに対する2.4.5.T.P.

の影響は昨年度行つた試験結果であるが、昨年度はアメリカから輸入の届くのが遅れた関係上早生種のリンゴに就いて試験する事が出来なかつた。しかし本年度は早生種をも含めて早中晩の各品種に就いて試験する事が出来たし、なおまたリンゴの外に桜桃、杏、李、梅等の核果類に就いても試験する事が出来た。

右の試験成績の大要を御紹介すると次の如くである。

早生リンゴの場合

早生種としては黄魁、紅魁、サンマーチヤムピオン、ドイル等を用いて試験したのであるが、各種共熟期並に着色が著しく促進される事を認めた、品種によつて多少の相違はあるが、大体拾日乃至二週間位早く収穫する事が可能であつた。試験方法は昨年と同様に同一樹の枝を処理した枝と處理しない枝とに区別し、相互の枝になる果を比較したのである。従つて一本の樹であり乍ら処理しない方の枝では果実が未だ全く未熟で完全食べられない状態であるのに他方処理した方の枝では、果は既に完全に熟し、真紅に着色し芳香すら発つという有

様で、樹下に立

つてこの状景を

眺めると、余り

にも顕著な薬効

に奇異な感に打

たれざるを得な

かつた位であ

る。では果実の

大きさや味はどう

であつたかとい

うと、果の大き

さに対する試験成績と同

様に何等の影響

も無かつた、味

の点では普通に

熟したものと比

べて、幾分甘味

が強いように感

ぜられた。

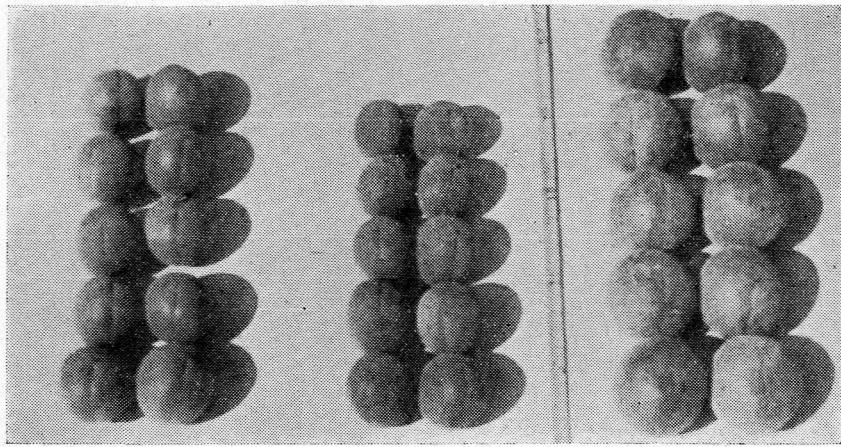
核果類の場合

は、桜桃、杏、李及梅に就いて試験することが

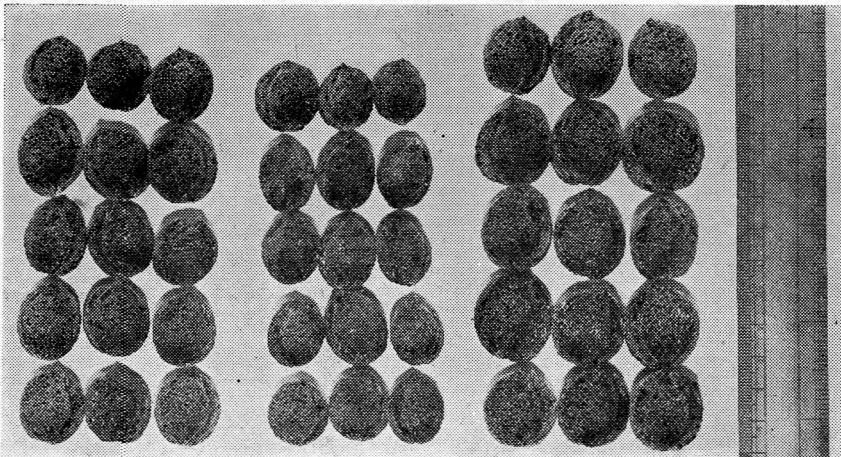
出来たが、桃に就いては適當な供試樹が見当らなかつたので、試験する事は出来なかつた。前記四種の核果類においては、いずれも熟期が四、五日から一週間位早められた、この成績は、早生リンゴで二週間も早められるのと比べると、別に驚く程の事はないが、リンゴとは別な意味で驚かさ

れたのは、処理した枝の果実の発育が著しく促進されるという事であつた。果実の大きさを、目方で比較した結果によると、無処理果を100とした場合、処理果の大きさは梅では二二七、杏では一二八、桜桃で一二六となり、到底同じ樹になつた果とは思はれない位著しい差がついた。(写真参照)アメリカでも、加州大学で杏で約30%大きさを

第一図 梅の果実に対する2.4.5. T P の影響



第二図 梅の種子に対する2.4.5. T P の影響



くなつたという報告はあるが、われわれの梅の場合のように、果が二倍以上に肥大したという例は、未だ世界的にもその例を見ないところである。唯一李のみは例外的で、却て処理果の方が二~三%小さくなつたのであるが、この原因は薬剤の散布時期がかなり遅かつた事に在つたようである。

核果類に対する薬剤散布の適期というのは丁度核が硬化し初める頃で、稚果を時々小刀で切つて見て、核の硬化初期を上手に捕えた事が大事であるようである。

次に果実が大きくなつた場合に種子（正しくは核といべきだが）の大きさはどうなつたかというと、前記加州大学での杏での成績、その後発表になつた李での成績では、種子の大さには何等の影響は無く、唯果肉だけが増したと明瞭に述べられて居るのであるが、われわれの試験結果では明らかに種子もまた大きくなつた。即ち梅では四二%、杏では二六%だけ大きくなつた。（残念乍ら桜桃の場合は測定しなかつた）種子の肥大に対する影響という点で外国の成績とわれわれの結果とは完全に喰違つて居る訳である。しかしそれわれは、飽くまでも事実を事実として観察したまでである。しかし実際問題として果実の大きさに対し、種子の占むる割合は比較的小さいものであるから、仮令種子が多少大きくなつたからといつても、結局グンと増したものは果肉である事には間違はない。以上の試験は大学に適当な供試樹が無かつた関係上、二、三の農家の樹を借用して行つたものであるが、目の当りその効果の著しいのを目撃した各農

家は、いずれも驚嘆するばかりであつた。では次に味はどうであつたかというと、杏、李では無処理果に比して殆ど大差はないところである。唯一李のみは例外的

方が糖分が多く（両種共約二〇%位糖分の方が多い）試食してみた結果も断然甘味

が強かつた

斯様に熟期が早まり、着色も濃くなり、おまけに果の肥大すら良くなり、更に甘味まで強くなるというのであるから、生産者によつては早期出荷による高値取引の利益があり、着色及サイズの点で上物として取扱われる事になるであろうし、更に個々の果の肥大に相当する収量増も加わる訳であるから、それらが総合された収入の増は莫大なものになると思う。

以上が大体今までの試験成績の大要であるが、われわれは唯單にこの薬が効いたとか、効かないとかだけを以て足りりとしているものではないので、むしろその生理学的機構の究明にこそ研究の重点を置いていられるのである。

最後に最近国内でも二、三の会社から国産の2.4.5.T.P.が発売されているが、試験の結果、外國製品との効果の点において何等異なるところがない事を付記しておきたい。

(北大農學部教授)

耐寒性強く、豊産な優良梨 北海早生と千両の由來について

星野勇三博士談

本稿は北海道大学に名譽教授星野博士をして

訪ね、先生に御伺した談話を取纏めたものであります。(文責在記者)

北海早生梨（一名相内）と千両梨（一名身不知）とは樹勢強健で、耐寒性頗る強く、豊産な梨で、北海道においては各地に広く栽培されている。品質は支那梨系統で極上

ではないが、特有の芳香と食味を有し、世人によく愛好されており、収益多く、将来価値の高い優良品種として推奨すべき梨である。

北海早生梨

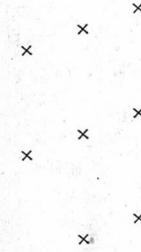
この梨の由来に就いては、先に北海道園芸会の「園芸」第二十卷、第十一号に記述した事があるが、北海早生梨即ち相内梨は明治三十年頃より、当分初は名称不明なまま余市方面で一部の人々に栽培されておりたもので、明治三十五年余市において品評会の開催された折に、余市町沢町の相内某なる人が、この梨に自分の姓の「相内」という名を附して出品し、ここに始めて広く世人の注目を引いたものである。

わたくしはこの時初めてこの梨を見て、珍らしい梨であると注目し、この梨の来歴を尋ねた所、相内氏は「自宅裏の川の辺りに自然に生じた実生の梨苗があつたのを育

て見た處がこの果実を着けたのである」との事で、當時支那梨に対する知識の少かつた折で実生という点で相内梨の外形と肉質等より判断し、これは和梨と洋梨の雜種であろうという風に考へた。斯る品種を世に出した相内氏に対し、深く敬意を表した次第である。

然るにその後段々余市地方の人の話を聞いて見るとこの相内氏のいう事が信ぜられないなくなつて来た。それというのは相内氏の宅にある樹よりも長齢大形なる同一品種の樹が在る事を知つたからである。余市町沢町のある人の宅地に植えられている同一品種の樹は、相内氏の樹よりも樹齢が古いという事実が明にせられたからである。また、その後この相内梨の性状調査が進んで見るに和洋梨の雜種というよりは、支那梨であるという事になつて來た。茲において如何にして斯かる梨が、余市に入つたであろうかという事が疑問になつた次第である。

相内梨は大正十一年北海道園芸会においてこの品種名を「相内」と呼称する事にしたのであるが、青森県の西谷順一郎氏がこの梨苗入手し、「北海早生」と命名して苗木を販売し、大正七年十一月と大正八年十月に雑誌「果樹」に相内梨と同一種を



北海早生梨と命名して性状等を発表し、爾來この梨は「相内」と「北海早生」と二つの名称で呼ばれて現在に至っているものである。

千両梨

相内梨が世の注目を引き、漸次その栽培が拡がつて米た後、余市地方にまた一種新しい梨が紹介せられ、同地方の果樹栽培者間に栽培されるものが多くなつて来た。

この梨は余市奥の山道地方の飯田果樹園に在つて結果したのが、元祖であるようでは、始めは飯田梨と呼ばれておつたのである。この梨は相内に比して晚熟であり、形は大きく十二月頃まで貯蔵が出来る上、外皮が強く輸送に耐え、更に豊産という点において相内以上であつたため、余市地方では漸次相内を凌駕して、栽培が拡まつた。

この梨はその形が相内と異なり、洋梨形となしているので、吾々はまたしても和洋梨の雑種でないかと思つたが、よく調べて見ると失張り支那梨系統である事が明くなつた。

余市町山田の川俣秀氏、高山吉五郎氏等が當時この梨に注目して纏つた栽培を熱心

に行つており、北海道大學も優良種として注目し、明治四十年この梨の苗木をとりよせて、試作したのである。明治四十四五年頃、当時北大果樹園に勤めておつた新潟県人の小西正之助氏が「千両梨」と呼称したのが、千両の名称のおこりである。大正十一年に北海道園芸会において、優良果樹苗木の実費配布をやつた事がある。その時にこの品種に「身不知」という新名称を附し、その苗木を配布した。この名称は余市地方の栽培家のある人がこの種の豊産で、枝の折れるのも知らずに、結果するという処から「身不知」と呼んでいるという事があつて、それは大果であり、極めて豊産なることの種を表現するに適当な名であるといふ點から、園芸会はこの名を採用したのである。

また一時この品種は支那梨の鴨梨と似ている事より鴨梨と呼んだ事もあるが、鴨梨とは全然異なるものである事が確められ、今まで鴨梨と呼称する人はない。

本種はこの園芸会の苗木配布以後急速に全道各地に栽培されるようになり、各地共成績よく、今日の発表を見るに至つたものである。

次に前記飯田果樹園に今一種支那系統の梨が栽培されておつた。これは北海道大學において「丸形身不知」と命名したが、本種は品質が劣るので、余市地方でも一向顧みられず、僅かに残つてゐる程度である。

支那系梨が道内に入つた起源について

以上の「北海早生」(相内)、「千両」(身不知)並に「丸形身不知」の三種の支那系統の梨が如何にして余市地方に入つたかに關しては甚だ明瞭を欠いている。しかし余市町山田の梨栽培の熱心家、川俣秀氏の説に大いに聞くに足る処があるので、次に川俣氏の言を紹介しよう。

「明治二十年代に、旧余市の梅川町に浜谷某という水車業を営業している人があつた。そしてその弟に支那の領事館に勤務する人があつた」という事を聞いたが、恐らくその弟が支那から梨の穂を持って来たか、あるいは送つて来たのが、支那梨の余市に入つた起りであろうと思はる。その後浜谷某は水車を猪俣某なる人に譲り、他に転居されたので、その後の消息はわからぬので、この事を確め得ないのは遺憾である。

而して猪俣の老嫗と飯田果樹園の老嫗とは

特別懇意な間柄で、常々交際しておつたものであるが、この事が飯田果樹園に身不知、丸形身不知の二種が起つたという事を説明するように思われる。而してまた、相内梨も最も古い樹が飯田果樹園に在つた証拠もある事などから、余市に支那梨三種のと信ずる」と。

種々の点から考えて、支那梨の余市に入つたのは、日清戦争前であるうと考えるが、その時代に支那梨の日本に入つたといふのは、極めて稀有なことであり、従つて北海道の余市に入つたといふ事になれば、当然東京その他を経たものでは無く、直接であつたろうという事が考えられる。そうなれば浜谷領事館員の手によつて來たといふ説は大いにうなづけるよう思う。但しこれらの品種は何れも豊産なので、果実または種子を送つて來たものを実生したのはあるまいか、という想像もされるが、これらは因より今日確める事は出来ぬし、また領事館は何處であつたかという事もはつきりしないのは遺憾である。

ホウレン草の栽培試験

武川政江

本種は別名 (Antvorskow)ともいはれ

デンマークで主に採種され、最近では米国においても、採種販売しているが、デンマークより直輸入の方が抽薹性その他について

春の夏播品種

一 花知らず巨大葉 (キングオブデンマーク) (写真1)

特性は (第一~三四表参照の事)
(写真2)

二 早太リ花知らず極大葉 (バイキング)

て優秀であつた。種子の一合粒数は一一〇〇粒位、熟期は晩生、葉の形狀は純三角で葉面は平滑で濃緑色多肉である。抽薹は極めて遅く、春の夏播においては抽薹しない。(第三表参照)越冬性は弱いので秋播は適当でない。収量は多く反収三五〇~四〇〇貫、夏採りでも二〇〇貫位は獲れ、品質もよいので晩春、初夏の市場で喜ばれる

これが前品種と同様に原産地はデンマークで日本でも北海道の雪印種苗は輸入販売している。現在日本に栽培の多いノーベルと比較すると、葉はこれよりも一層濃緑色で新鮮味があり、葉の縮みも少く、生長が非常に早い極早生種である。そして丸味を



写真 2 バイキング



写真 1 キングオブボンマーク

もつたみごとな葉は夏のホウレン草として極めて都会人の好むタイプである。抽薹は極めて遅く、春～夏播の場合ほとんど抽薹しない。（第三表参照）その上耐暑性があるので夏野菜の間作としてもよく、晩春から夏播用として営利的栽培者、家庭菜園何れにも適する品種で当場の試験（第一～四表参照）ではキングオーブデンマークよりもホウレン草として最も適当な品種であることを確認した。形状や生態調査は第二～三

もつたみごとな葉は夏のホウレン草として
亟めて都会への子供タブレットである。油蒼は

四
表參

の
こと

のため耕壟
型を示す。

照

五表參

以上春之
夏播品種の

調査(第三)

中から最も
有望なも

の、而も雪

子で検定し
たものだけ

に就いて解説をした。

一九五四年
は東京恵泉

女子園芸大
學農場で、

学説考一

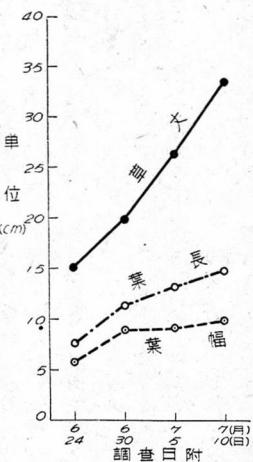
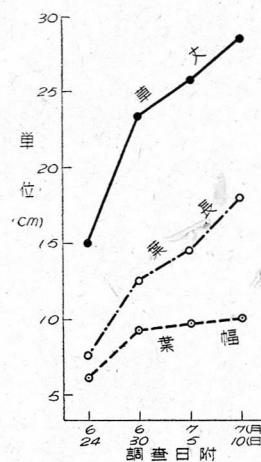
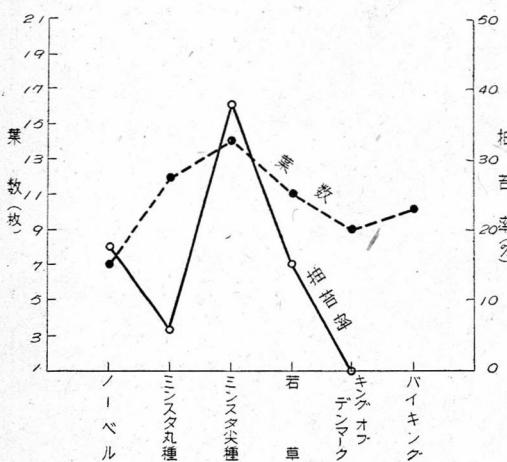
検定は満了

松本種苗試験場圃場で

実験した。

松本種苗試
驗場)

第3表 各品種の生態調査
1955年5月30日播 7月10日調査



第5表 ホウレン草栽培型 △印播種期 ○印収穫時期

第4表 各品種の実態調査
1955年5月30日播7月10日調査

(1) 栽培型の研究

月別 型	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	適する品種
春播 (田畠)	△	-○-								サンマー ジャイアント(西)
晚春播	△	-○-	△	-○-						キング・オフ デンマーク(西)
夏播 (畠・宅地) (高冷地)		△	-○-	△	-○-	-○-		△	-○-	バイキング(西)
秋播		-○-			△	-○-	-○-	△	-○-	サンマー ジャイアント キング・オフ テンマーク
		-○-						△	-○-	東湖・岳城・新日本 豊 葦・若草 (以上日本種)
			-○-						△	ミンスター・ランド 次郎丸・ノーベル ロング・スタンディング

